



相続登記の義務化



宇宙の衛星を再生?



第六世代移動通信システム

昨年以降から経済も再び活況な兆しが見えておりますが、現場を担う人手不足も顕著のようです。そこで、現場の自動追尾 TS や三次元スキャナーに加え、最新の CAD システムやサーバを構築し、しっかりとオンサイトサポートサービスを受けられる業務体制を図ることが急がれています。「働き方改革関連法」にもいち早く対応できることでしょう。

発行責任者 牧坂勝

相続登記の義務化、始まる

相続登記の義務化が、令和6年4月1日から始まりました。改めて相続登記の義務化とはなにか振り返ってみましょう。相続登記の義務化とは、「相続人が、不動産(土地・建物)を相続で取得したことを知った日から3年以内に、相続登記をすることが法律上の義務になることです。また、令和6年4月1日より前に相続した不動産も、相続登記がされていないものは、義務化の対象になります。また、正当な理由がないのに相続登記をしない場合、10万円以下の過料が科される可能性があります。これから法の整備が進められていくことで、所有者不明土地の問題解消に向けて、前進して行くことになるでしょう。

法務省(相続登記の申請義務化に関する Q&A) ページを参考に作成
https://www.moj.go.jp/MINJI/minji05_00565.html#mokuji1

6G 通信とは? 何がかわるのか?

現在普及が進んでいる最先端の移動通信システムである5G通信。2030年ごろには、次なる移動システムが普及されると言われています。それが、6G 通信(第六世代移動通信システム)です。具体的にどのような進化が見込まれているのでしょうか? 【通信エリアの拡張】これまでの4G や5G では、通信できない地域や場所が存在しました。6G では、陸100%、海200海里、空は高度1万メートル(宇宙空間)まで通信エリアが拡張されます。【超高速・大容量通信】6G では、通信速度が超高速化され、5G の10分の1の速度である1ms(1,000 分の1秒)以下程度の超低遅延を目指しています。これは人間の神経の反応速度を超える速さです。この低遅延の特徴を生かし注目されているのが、人間拡張技術の実用化です。人間拡張とは、テクノロジーの力によって人間の身体や感覚などを拡張する技術のことです。例えば、誰かの動きを別の人に伝え同じ動きができるようにコントロールすることができます。人によって体形は違いますが、その情報も組み込みながら自然な形で動作を再現させることができるわけです。それは、これまで言葉や文字だけでは伝えきれなかった情報を他者に伝達できるようになるということです。通信システムのさらなる進化を遂げた6G の実現によって、SF で描かれていたような世界が段々と現実味を帯びてきているのです。

被害総額が一番大きい特殊詐欺とは?

警察庁より令和5年における特殊詐欺の被害報告(暫定値)が発表されました。被害総額は、441,2 億円にも上るそうです。その中で最も被害を及ぼした特殊詐欺の手法は、架空料金請求詐欺で、被害額は、138,1 億円でした。架空料金請求詐欺とは、有料サイトや消費料金などについて「未払い料金があります。今日中に払わなければ裁判になります」などとメールや SNS で通知したり、インターネット閲覧時に「ウイルスに感染しました」と急に表示させたりし、ウイルス対策サポートという口実で費用を請求し、お金をだまし取る手口のことです。こうした特殊詐欺への対策として、警察庁では次のようなアドバイスが掲げられています。1. ハガキなどにある連絡先などには連絡しない。2. 現金を送れ、コンビニで電子マネーを買って、というような案内は相手にしない。3. 個人情報や暗証番号は教えない。特殊詐欺の被害は年々増加しています。こうした対策を講じつつ、インターネットを安全に有効活用して行きましょう。 出典:警察庁ウェブサイト

宇宙の衛星を再生? ~軌道上サービス~

人工衛星の登場以降、GPS やナビゲーションシステムの利用、測量においても GNSS 測位のような新たな技術が生み出され、私たちの生活に大きな影響を及ぼしてきました。そんな科学の結晶である人工衛星にも、まだまだ課題が残されています。スペースデブリ(宇宙のゴミ)です。人工衛星は燃料によって自身の高度を維持したり移動したりしています。しかし一度燃料が尽きてしまうと、他の電子機器部分が利用できないにも関わらず、宇宙のゴミとして使い捨てられてしまうのが現状です。有名な「みちびき」(準天頂衛星システム)も例外ではなく、約10年間だけは活動できるように設計されているようです。そんな中、「人工衛星の再生」という考え方が今注目されています。JAXA(宇宙航空研究開発機構)は、民間事業と連携し「軌道上サービス」という分野に力を入れています。軌道上サービスとは、車のロードサービスのように、人工衛星の修理、回収、燃料補給などを目的としたサービスです。例えば、これまでであれば燃料切れで使い捨てられてしまうような人工衛星に燃料補給用の衛星が近づき、燃料補給をして燃料切れだった衛星を再び利用できるようにするためのシステム開発も現在進められています。この技術が発展すれば、今後は衛星を長く使い続けることができます。それは、人工衛星製作に掛かる予算削減や年々増え続けている宇宙のゴミを減らせることに繋がり、宇宙ビジネスへの発展にも期待することができます。2030年までに、軌道上サービスを一般的なサービスとして提供することが目標とされているそうです。今後の発展が楽しみです。

Microsoft365 Copilotとは?

Copilot は、入力されたテキストやコードを理解し、新たなテキスト、コード、画像を生成する、Microsoft が提供している生成 AI ツールのことで、アプリで利用出来ます。例えば、ネットで何かを検索する際、ブラウザの Edge の Copilot の機能を使えば、曖昧なキーワードであっても、Copilot がテキストによる対話形式で情報を探しユーザーの必要としている情報を見つけることを助けてくれます。他にも、エクセルで営業成績をまとめている際、Copilot に「このグラフからトレンドを教えてください」と指示すると、Copilot がエクセルの営業成績を自動で分析し、文章の形でユーザーに回答してくれます。こうした AI ツールの進歩によって、私たちの働き方がまた少し変わっていきそうです。

ワンポイント 『文字列の角度を簡単に調整 アドバイス (TREND-ONE ver.7)』

要素の上で「shift」キーを押すと、角度を取得できます

文字をドラッグして移動させる途中で